

### 3. 調査結果一覧表

1月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
1. 正月の準備	準備をする時期	31日以前	×	31日当日	×
	特別な呼称がある (コトハジメなど)	×	×	×	×
	歳暮の礼をする	×	×	×	×
2. 餅つき	餅つきについて	昭和4、5年くらいまで賃搗き屋が来た。賃搗き屋は20日前後までに来ていた。最終29日くらいまで	賃搗き屋	自分のところでついた家で出来ない場合は賃搗き屋 本家なので、分家が総出で集まり、二石くらいついた	自分のところでついた
	決まった日に餅をつく	×	×	×	29日くらい
	餅をついてはいけない日がある	×	×	×	×
3. 門松・注連縄	飾りつけ	注連縄	注連縄	若松	注連縄 松飾
	飾りをする日	31日	——	31日	元旦
	場所	玄関	玄関、神棚、勉強机	床の間	店、三宝さん、はかりの上、自転車
	その他	玄関に紋幕 名刺入れ	——	玄関に紋幕 名刺入れ	玄関に紋幕 名刺入れ
4. 鏡餅	鏡餅・その他おそなえ	お飾りの場所と同じ	玄関 神棚 勉強机	床の間 仏間 神棚 三宝さん 仕事場 勉強部屋の机の上	——
5. 大晦日	呼称 オオミソカ/トシコシ	オオミソカ	トシコシ	——	——
	年越しそばを食べる	×	——	×	×
	歳徳・年神をまつる	×	×	×	×
	夜明かしをする	×	○	×	○ (仕事をしていた)
	夜の寺社詣でをする	×	×	×	×
6. 若水・初水	呼称がある 若水/初水	×	×	——	×
	水を汲む人がいる	×	×	男性	×
	用途	×	×	雑煮	×
7. 三が日の雑煮	調理する人	女性	女性	男性	女性
	餅の形状	丸	丸	丸	丸
	元旦	サトイモ・大根・人参・ほしえび/白味噌/餅	小芋・人参/白味噌/餅	小芋・大根・人参・豆腐・牛蒡/白味噌/餅	小芋・大根・人参・オヤキ(焼き豆腐)/白味噌/餅
	二日	ぜんざい	すまし/かしわ/水菜/餅	元旦に同じ	すまし/青菜/焼餅
	三日	定めなし	ぜんざい/三日ともすまし/定めなし	元旦に同じ	定めなし
	その他	こぶだし	特になし	こぶだし 餅はたくさん食べないといけない	特になし

ある：○、なし：×、不明：——で示した

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
31日以前	31日当日	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
賃搦き屋が来たり、町内でついたりした	賃搦き屋	賃搦き屋	自分のところでついたり、賃搦き屋が来たりした
×	×	×	×
×	9の付く日には「苦がつく」と言った	×	29日には「フク」と言って餅をつくこともあった。
注連縄 門松	注連縄	門松 戦時中は門松の絵を書いた短冊	注連縄 井戸に餅 根引き松
——	31日	30日	31日
床の間、仏間、神さんには二つ重ねる、三宝さん	玄関、床の間、仏間、荒神さん、トイレ	仏さん、神棚、荒神さん、仕事場	——
——	玄関に紋幕 名刺入れ	玄関に紋幕 名刺入れ	なし
——	お飾りの場所と同じ	——	神棚 へっついさん 便所 仕事場・店
——	オオミソカ	オオミソカ	オオツゴモリ
×	×	○	○
×	×	×	×
×	×	○×両方あり	○
×	×	○×両方あり	○
——	初水	——	若水
男性	女性	×	——
供え物	雑煮	供え物	供え物
女性	女性	女性	女性
丸	丸	丸	——
大根・人参・豆腐／白味噌／餅	小芋・大根・人参・豆腐／白味噌／餅	小芋・大根・人参・ほうれん草／白味噌／餅	サトイモ・大根・人参・水菜／白味噌／あも(餅のこと)
すまし／水菜／餅	すまし／水菜／餅	すまし／餅	すまし／かしわ／焼いたあも
定めなし	定めなし	水菜／白味噌／餅	定めなし
特になし	こぶだし 2日のすましには柚子をいれることも	特になし	特になし

1月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺	
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)	
8. 一月二日	初夢・書初め	初夢を見る日	一日の晩	×	——	一日の晩
		「一富士・二鷹・三茄子」	——	×	——	——
		宝船の絵を知っている	○	×	○	×
		書初めをする	×	——	×	○(学校で)
9. 一月三日		呼称がある 「フクアカシ」	×	×	×	——
10. 仕事始め		仕事始めはいつからか	仕事始めは店によって 違う	——	えべっさんまで休み	暮れにたくさん働いて 出来るだけ長く休める ようにした
11. 一月七日	七草粥	呼称がある 七日正月／六日年越	×	×	×	×
		七草粥を作ったか	○	○	○	○
		唱えごとがある	×	カラコイカラコイ	×	記憶にない
12. 一月十一日	鏡開き	鏡開きをする	——	——	○	——
13. 一月一四～一五日	小正月・どんど	どこで行ったか	大阪天満宮	玉造稻荷神社	三光神社	高津宮
		小豆を使った料理 (粥／ぜんざい)	ぜんざいは他所ではし ていたが、家ではして いない	粥・ぜんざい	粥	粥
14. 一月一六日	ヤブ入り	ヤブ入りの時期	一月以外	一月	一月	一月
15. 一月二十日	二十日正月	呼称がある 骨正月／二十日正月	×	×	×	×
16. 一月二日	初大師	初大師に参る	自分には行かないが祖母 が参っていた	×	○	——
17. 一月五日	初天神	初天神に参る	○	×	×	○ (母が天満の出身)
18. 一月の他の行事		その他	なし	えべっさんへ参る	正月の餅花は、家では していないが、日の出 商店街ではやっていた	はったつさんへ参る (住吉大社)

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性)1931～47年 (女性)1937～47年
——	一日の晩	——	——
——	——	○	○
——	——	○	○
×	○	×	○
——	×	×	×
7日	4日	商売をしているところでは、えべっさんが終わるまでは働かない、というところもあった	4日
七日正月	×	×	×
○	○	○	○
唱えごとなし。七草粥の中にはお飾りの餅と干しえび、海苔を入れた	×	唐土の鳥が渡らぬ先に～	「唐土の鳥が日本の国へ渡らぬうちに七草ナズ(ソ)ナ」を繰り返す
○	○	○	○
生國魂神社 左義長と言っていた	四天王寺、生國魂神社	四天王寺、大江神社	四天王寺、大江神社、五條宮、生國魂神社など
粥	粥	粥・ぜんざい	粥・ぜんざい
——	一月以外	一月	一月・一月以外
——	×	×	二十日正月
○	○	○	○
×	×	×	×
なし	えべっさんへ参る(今宮) 正月は餅花を飾った(柳の木)	どやどや(1月14日)地元の人は参加しない。見ているだけ。テキ屋みたいな人たちが参加していた。	どやどや(1月14日)地元の人は参加しない。とても危険な行事だったという認識がある。東と西のケンカだった。 ・18日の庚申さん(二カ月に一度ある)昆布を焼いたらバチが当たる

2月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
19. 二月三日	節分	呼称 セツブン・トシコシ	トシコシ	セツブン	トシコシ	——
		鰯を食べる	○	○	○	○
		鰯の頭を柁に刺し、 戸口につける	○	○	○	○
		豆まきをする	○	——	○	○
		豆を供える ／神社へもって行く	炒った豆を供える	×	×	×
		年の数だけ豆を食べる (或は+1)	○	×	○	○
		厄年にする事	厄除ぜんざいをふる まった	厄年の男性はぜんざい をふるまう 高麗橋の菊屋のぜんざ いをふるまう	×	ぜんざいは12月12日 にふるまった
20. 初午	初午の行事をする	×	×	町内を巡る台車があった	高津宮の東側にあるの は知っているが家では しない	
21. 二月五日	涅槃 涅槃団子・あられをつ くる	×	×	×	×	
22. 二月の 他の 行事	その他	24日に日限地藏のお祭 りがあった 4のつく日に本町通ま で露店が出た	なし	なし	なし	

3月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
23. 三月三日	桃の 節句	3月3日の呼称がある	——	×	ヒナマツリ	——
		特別な食べ物がある	白酒、そばボーロを5 つくらい半紙に包んで もらった	×	蛤のお吸い物 白酒 菱餅	蛤のお吸い物 あられ 菱餅
		雛人形を飾る	——	×	お嫁入りのときに実家 から雛壇を持ってくる	姉妹がいたので、七段 飾りをしていた
		この日に限ったあそびがある	×	×	×	×
24. 彼岸	行事がある	祖母が四天王寺に参っ ていた 庚申塚で蒟蒻が売られ ていた	×	四天王寺か？	天王寺へ参る。墓は中 寺町の寺にある	
	食べ物	×	×	おはぎを食べる	ぼたもち	
25. 三月の 他の 行事	その他	なし	なし	なし	なし	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
セツブン トシコシ	トシコシ	トシコシ	トシコシ
○	○	○	○
○	○	○	○
×	○	○	○
×	×	神社へもって行く	神社へもって行く
×	○	○	○
×	×	明治40年ごろにはぜんざいを ふるまっていたらしい	厄年の男性は周囲にぜんざいをふるまった。 厄除はあびこ観音に行く こともあった。
玄関のところにお稲荷さんを 祀っているが、初午など、特 に何もしていない	毎月決まった日に袴を着た人が着て 家のお稲荷さんに参りに来てくれる 人がいた。 湯立神事をした。釜は自分の家で用 意した。	×	商売人の家には神主がき てお祓いをした
×	×	×	×
なし	なし	2月11日、紀元節	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
ヒナマツリ	オヒナサン	ヒナマツリ	オヒナサン
×	ちらしずし 蛤のお吸い物 菱餅、雛あられ	雛あられ	赤飯、 ちらしずし 蛤のお吸い物
×	○	×	旧暦から飾って、新暦の3 月3日にはしまう。早くし まわないと婚期が遅れる。
×	小さな釜でご飯をたき、台所 の大きな釜にうつす	檀原神宮・熊野・金剛越え・ 生駒山など	×
最勝寺	四天王寺	四天王寺 秋の彼岸と同じ	四天王寺。竹林寺から一心 寺へ。お墓参り
——	おはぎを食べる	×	おはぎを食べる
なし	なし	太平寺：3月13日の十三ま いりは戦前から盛んだった	なし

4月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
		卯月八日	×	×	×	×
26. 四月八日	花飾り	ウツギ・シャクナゲ・ツツジなどの花を長い竹の先につけ、庭に立てる(天道花・八日花)	×	×	×	×
	寺の行事	寺の行事がある(花祭・灌仏会)	日限地藏の甘茶まつりは知っている	×	×	やっていたかもしれないが、行ったことはない
	野崎参り	大東市野崎にある、野崎観音(慈眼寺)に行く	×	×	×	×
27. 四月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	

5月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
28. 五月五日	呼称がある端午の節句/男の節句	——	——	——	端午の節句	——
	飾り	鯉のぼり 兜・装束	鯉のぼり 兜・装束	武者人形	鯉のぼり 兜・装束	武者人形
	特別な食べ物がある	×	——	——	チマキ 柏餅	チマキ 柏餅
	菖蒲屋根に上げる/鉢巻	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる 鉢巻をする	屋根に上げる
	菖蒲湯に入る	○ (銭湯で)	○ (銭湯で)	○ (銭湯で)	○	○
	別呼称がある女天下/野良の節句働き	×	×	×	×	×
29. 五月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	○	×
×	×	×	×
なし	なし	なし	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
端午の節句	男の節句	×	端午の節句 男の節句
×	金太郎	鯉のぼり	鯉のぼり 武者人形
——	×	チマキ	チマキ 柏餅
屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる
○	○ (銭湯で)	○	○
×	×	×	野良の節句働き
なし	なし	なし	なし



6月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
30. 六月一五日前後	天王祭・祇園祭 水の神を祀る	×	×	×	×
31. 六月三十日	茅の輪くぐりをする	×	×	×	×
32. 六月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし

7月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
33. 七月一、三日 半夏生	呼称がある ハンゲショウ/ハゲッショ	×	×	「ハンゲッショ」 「ハゲショウ」 聞いたことがあるが、 よく覚えていない	——
34. 七月七日 七夕	新暦/旧暦	新暦 学校でやった	特になし	旧暦 笹を飾る 真田山で燃やす	新暦 幼稚園で飾りを作って 家に持って帰った
35. 七月中	夏祭	生國魂神社 (7月9、10日)	玉造稻荷神社	三光神社 玉造稻荷神社	高津宮 (7月18日)
36. 七月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
——	×	×	——
新曆 笹を飾る 四ツ橋へ行って流す	新曆 神社で燃やす	こだわらない	旧曆
生國魂神社 「屏風を玄関に飾る」	五條宮 生國魂神社	愛染堂(6月30日) 大江神社(7月15、16日) 五條宮 久保神社 河堀稻荷神社 生國魂神社	愛染堂(6月30日) 大江神社(7月15、16日) 五條宮 生國魂神社
なし	なし	なし	なし

8月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺	
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)	
	呼称がある 地獄の口開け ／釜開け	口開け	×	釜開け	ふたが開く	
37. 八月二日～五日頃	七日盆	特別な行事がある	×	×	井戸替え	×
	精霊迎え	霊を迎える日がある	×	×	×	12日
		迎え方	×	×	×	玄関でオガラを焚く
		お供え物	×	×	火はつけないが、玄関のひさしのところへ提灯をかざる	精進料理 そうめん
		特別な行事がある	×	×	×	――
	新仏	新仏の供養をする	×	×	×	×
	無縁仏	無縁仏の供養をする	×	×	×	庭に茶を撒く
	精霊送り	精霊を送る日がある	×	×	×	15日
		送り方	×	×	×	オガラを焚く
		場所	×	×	×	――
38. 八月二十四日頃	地蔵盆	行事がある	×	お婆さん達が集まり、御詠歌を歌っていた。のど自慢もあった	自宅の前にある地蔵は当家のものである  20cm四方×30cm高さの木枠(提灯)をつくり、その中に地蔵さんの絵の書いたものを入れ、近所各家へ配り、吊るしてもらった。中にろうそくがあり、その火が消えたら付けに行くのが子供の仕事であった。  真田山の上に住職が来て、数珠くりや御詠歌をした	子どもに数珠くりをやらせる 御詠歌をする
39. 八月の他の行事	その他	なし	ヤブ入り	なし	なし	
	たたみあげ	する 昭和10年くらいまで、夏の大掃除をしていた すす払いをした	する 大掃除	夏の大掃除。障子もはらい、掃除する。 食事を作ることができないので、昆布巻き屋や煮豆屋が売りに来た。	――	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
——	口開け・釜開け	「地獄の釜が開くから仕事を してはいけない」という言い伝 えがあった	釜開け
×	×	×	おしょうらいさんを迎える。 井戸替はわからない。
×	13日～15日	13日の夕方から	7、10、13日のいずれか
×	玄関でオガラを焚く	玄関でオガラを焚く	玄関でオガラを焚く (7、10、13日のいずれか)
×	そうめん 季節のもの	そうめん(浄土宗) 高野豆腐 酢ごぼう ささげ 茄子(真言宗)	煮込み素麺、お迎え団子、 七色の寿司(禅宗)、七つのにゅう めんなど 14日には本人の好きなものを(毎 食違うもの) 胡瓜や茄子に割り箸をさし足を 作って立てる
×	お茶は頻繁に替えた	行事が済むとお供え物を四天 王寺に持っていった	お供えは13日から 13日にはお茶を何回も供える。供 えた茶は「無縁法界」と唱えて庭 先に撒く
×	提灯をかざる	×	新しい岐阜提灯を用意する 盆棚を設置する オガラで枠を作る
×	お下がりのお茶を家の外へ撒く。 家の四つ角にバケツの水を撒いた。	×	四天王寺へ参る
×	15日	15日頃	15日
×	お供え物をする	お供え物をする	×
×	四天王寺	四天王寺	四天王寺
・8月23、24日 ・4こずつ14列の提灯をかける ・かけ布を出す ・子供にお菓子を配る ・赤飯をつくる。白ご飯もある ・精進料理を作る(高野豆腐、 厚揚げ、かんぴょう、さつま いも・インゲンの煮たもの) ・こどもたちに配る	岩おこしをもらった	×	子供の名前を書いた提灯を吊るす
なし	なし	・8月10日、四天王寺の十日 参り(千日参り) ・8月21、22日、清水寺のお 大師さん。 ・四天王寺の開かずの門が8 月21日に開いた ・夜店(10、20日) 権寺町か ら四天王寺西門まで	なし
する	夏の大掃除	なし	なし

9月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
40. 九月前半	月見	月見の行事をする	×	○	○	○
		お供え物がある (団子のかたち)	×	×	ススキ 団子(丸・小さい) 小芋	ススキ 団子(丸・小さい)
		風習(子供が供物を盗む)	×	×	×	×
		十三夜をする (豆名月・芋名月)	×	×	×	特におそなえはしないが、 この日は「月がよく見える」 といった
41. 九月九日	重陽の節句	重陽の節句をする	×	×	×	×
42. 九月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	秋祭(10月18日)があっ て、学校が休みになっ た。

10月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
43. 十月亥の日		亥の子の行事がある	×	×	×	×

11月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
44. 十一月三日前後		大師講に参る	21日、四天王寺 露店がたくさん出ていた	×	お大師さんのときには 家の前を通る人が多 かった	×
45. 十一月の他の行事		その他	神農さん(11月23日) 大正時代あたりから盛 んに行われるように なった	なし	報恩講 金屏風を出して玄関に 飾った	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性)1931～47年 (女性)1937～47年
○	○	×	○
団子(丸・小さい) 小芋	団子(丸・小さい) 小芋	ススキ 団子(細長い・餡巻き)	ススキ 小芋・豆
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
なし	なし	大江神社の秋祭(9月15、16日)。ごく関係者の間で行われ、一般向けではない 彼岸は四天王寺におまいりする	秋祭より夏祭のほうが盛んだった

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
×	×	×	10月ではなく、12月の最後の亥の子の日に炬燵を入れたら火事が出ない、という言い伝えがあった。

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
×	×	×	×
なし	なし	神農さん(11月23日) 七五三	神農さん(11月23日) お十夜は寺の日程で決められていた

12月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
話者の性別・生年			男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
質問事項						
46.	オトゴノツイタチ 二月一日	この日にすることがある	×	×	×	×
47.	針供養 二月八日	針供養をする	近所の女の子が天満宮 でしていた 蒟蒻に針を刺す	×	あるのは知っているが うちではしない	蒟蒻に針を刺す
		大根だきをする	×	×	×	——
48.	煤払い 二月中	煤払いをする	×	×	○	×
49.	冬至 二月二三日頃	冬至の行事をする	柚子湯は銭湯がしていた 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた	南瓜を食べた	南瓜を食べた
		言い伝えがある	×	×	——	——
50.	十二月の他の行事	他の行事	なし	なし	なし	12月12日 厄年の人が三枳三升の ぜんざいをたき、近所 にふるまった

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
×	年寄りが「ツイタチマイリ」をしていた(石切神社や高津神社へ)	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	○ (大掃除をする)
思い出したら南瓜を食べる	柚子湯に入った 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた
——	柚子湯に入ると風邪を引かない	南瓜を食べて柚子湯に入ると風邪を引かない	×
なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庚申さんには、縁日が出た。北を向いて蒟蒻を食べたら風邪をひかない、と言われた。</li> <li>・サルがいて、その前で歯ぎしりが治る豆が売られていた。</li> <li>・四天王寺の西門前で虫下しが売られていた。「セメン菓子」「まくり」と言った</li> <li>・12月14日、赤穂浪士の祭典をしているところもあった。</li> </ul>	なし

(一覧表作成：和住 香織)